

平成30年度 学校評価 集計結果

4 適切、3 ほぼ適切 2 やや適切 1 不適切

4を4点、3を3点、2を2点、1を1点として、平均を算出し、四捨五入して点数を表示した。

(1)教育理念・学校教育目標

①	学校の理念、目的、望ましい学生像が定められているか。	4
②	学校における職業教育の目標が明確か。	4
③	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか。	3
④	学校の理念、目的、学生像、将来構想等が学生・保護者に周知されているか。	3
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・業界のニーズが多様化しているので、それを捉えるのが難しい。 ・社会のニーズに応えるための情報を入手する機会が必要 ・保護者への周知をもっと進める。 	
改善方	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会や業界との連携を密にする。 ・保護者宛の文書で教育理念等を周知する。 	

(2)学校運営

①	経営方針に沿った事業計画が策定されているか。	3
②	運営組織や意志決定機能が明確化され、有効に機能しているか。	3
③	人事、給与等に関する規定等は整備されているか。	3
④	教務・事務等の分掌組織、意志決定システムが整備されているか。	3
⑤	教育活動に関する情報公開が適切にされているか。	3
⑥	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3
⑦	予算・収支計画が有効かつ妥当なものとなっているか。	3
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとICT化を進めるべき。 ・会議の持ち方を合理化して欲しい。 ・若手の教員を計画的に採用していくことが必要 	
改善方	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTに関しては、計画的に進めていく。 ・会議を効率的に進めるために、主催者は資料を事前に配布し、出席者は事前に資料を読んでから会議に出席する。 ・長期的な視点に立ち、新たな職員の採用を進めたい。 	

(3)教育活動・教育環境

①	学校教育目標・指導要領・学則等に基づいた教育課程が編成されているか。	3
②	学科の到達レベルや学習時間の確保は明確か。	3
③	実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか。	3
④	理・美容部会が機能し、教育活動の改善が図られているか。	3
⑤	授業評価の実施・評価体制が図られているか。	3
⑥	成績評価、単位認定、進級・卒業の基準は明確か。	4
⑦	資格取得に関するカリキュラム、指導体制は整っているか。	4
⑧	教員が先端的知識・技能等を習得するための研修等の取組が行われているか。	3
⑨	学校行事等、適切に立案され実施されているか。	3
⑩	施設・設備は必要性に対応できるよう整備されているか。	4
⑪	防災体制は整備されているか。	4
⑫	生徒指導の重点(挨拶・マナー・後始末)が適切に実施されている。	3
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の理解を得られるような生徒指導 ・2F実習室の有効な活用 ・生徒指導の重点の指導の充実(同様他2) ・理・美容部会を機能させたい。 ・新しい知識を得るための研修の充実 	
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の情報を職員会議等で積極的に共有し、全教職員で指導に当たる。 ・生徒指導の共通理解事項をもとに共通行動に努める。 	

(4) 学生支援

①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4
②	学生相談に関する体制は整備されているか。	3
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	3
④	学生の生活環境への支援は行われているか。	3
⑤	保護者と適切に連携しているか。	3
⑥	卒業生への支援体制はあるか。	3
⑦	高校等との連携による職業教育等の取組状況はどうか。	3
課題	・卒業生やサロンとのつながりがもっと必要。 ・高等学校への本校の情報発信が少ない。 ・保護者への情報発信が少ない。	
改善方	・職場体験等を受け入れながら外部へ学校のアピールの場としていく ・同窓会を活用して、卒業生とのつながりを密にしていく。 ・高校の先生方の本校への理解を進めるために、実習見学等を実施する。	

(5) 広報・募集活動

①	広報・募集活動は重点化・効率化が図られ適正に実施されているか。	3
②	広報・募集活動を支援する職員体制ができているか。	3
③	広報・募集活動では、教育成果が適正に伝えられているか。	3
課題	・協力する気持ちがあっても何をして良いのか分からなかった。 ・広報活動への支援体制が不足していた。	
改善方	・管理職を含めた全員で広報業務に関わっていく ・SNSの活用をもっと積極的に行う。	

(6) 法令等の遵守

①	法令・専修学校設置基準・就業規則等の遵守と適正な運営がなされているか。	4
②	個人情報の保護対策がとられているか。	3
③	自己評価の実施と問題点の改善が行われているか。	3
④	自己評価結果を公開しているか。	3
課題	・法令遵守は問題がないと思う	
改善方		

(7)社会・地域貢献

①	学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献を実施しているか。	3
②	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	3
課題	・クラス単位ゴミ拾いはやっているが、認知度が低いと思う。 ・地域貢献として何ができるのか考えたい。 ・施設を利用した貢献は可能なのか、たとえば2Fサロンの活用はできないのだろうか。 ・もっと地域貢献をしたい。	
改善方	・地域のイベントへ積極的に協力する。 ・まだまだ足りないと思う。地域の人が認めてくれるような活動にしたい。	

(8)その他建設的な提案があれば

・施設の有効活用等、地域住民への施設の開放、一般美容師への研修のための実習室の貸し出しなどに取り組みたい。 ・全員協力してより良い学生を育てていきたい。

今後の課題

・理美容業界への高校や中学校からの進学が低下してきている現状を、業界団体と連携して、高等学校の先生方への啓発や、中・高生の職業体験、インターンシップ制度への協力等を通して理解を深めることが大きな課題と考えている。 ・また、社会貢献の一環としてボランティア活動の強化にも取り組みたい。地域の方々と交流することで、学生達の成長も期待でき、地域方々の理解も得られると考える。

学校関係者評価報告書

日 時 令和元年5月13日(月) 13:00~14:30

場 所 SENDAI 中央理容美容専門学校 3F 会議室

出席者 学校関係者評価委員

- 1 兼重 康浩 氏 (美容室オーナー)
- 2 伊藤 貴章 氏 (本校同窓会会長)
- 3 矢子 浩次郎 氏 (東北高等学校 教頭)
- 4 佐々木 洋 氏 (本校PTA会長)

本校関係者

- 1 校 長 横橋 健
- 2 事 務 長 品川真里子
- 3 教務主任 櫻井 江利子

欠 席 柳澤 邦充 氏 (美容室オーナー)

提 言

- 全体的にしっかり取り組んでいると思われる。自己評価を厳しくつけているのか、点数が低いのではないだろうか。
- 挨拶・マナー・後始末という理美容師にとって大切なことである。特に挨拶についてはサロンに就職して即戦力となり得るように、さらにしっかりとした指導を望む。
- 退学者が全体としては少ないと思うが、退学者をさらに少なくするよう、より丁寧な指導・取り組みを望む。
- 理美容系の学校へ入学を希望する高校生を増やすための方策にさらに取り組んで欲しい。
- 学校のパンフレットやホームページ等への学生の意見を取り入れることを考えたかどうか。
- 就職して、思い描いたものと現実とのギャップに悩む者がいるが、そこを乗り越えないと理美容師としての喜びが得られないと思う。学校でインターンシップ等に取り組むなど、しっかりとした指導を望みたい。